

## I 寛容の意味

寛容  
ピリピ書 4:5-7

香港JCF  
2010年7月18日

1. 喜びは信仰の基本的姿勢、寛容は対人関係に於ける信仰の姿勢
2. 寛容は自我に死に、愛に生きる者の在り方
  - ①自分の基準・計画・コントロールに死ぬ
  - ②主の愛で人とその欠点を受容し、補う
3. 寛容は御霊の実(ガラ5:22-23): 自己顯示のない、密やかな実、良い人間関係の土台

1

2

## II 寛容への道(ロマ14章)

信仰と(偶像に捧げられた)肉の問題

1. 十字架の赦しの適用:ロマ14:15
2. 完全主義的人間観からの解放:14:20-22a
3. 神と人、自分と人の境界線を引く:14:1-4  
→寛容を失った社会での信仰者の証の重要性  
ロマ書12:17-21(信仰と愛の勝利)

3

## III 寛容の源:主の愛

1. 主は近々、再臨される(時間)
2. 主は身近に臨在される(空間)
3. 主の人知を超えた愛の寛容さ(超越)  
→主の再臨と臨在を覚え、主を喜び、主の愛に生きるキリスト者=人知を超えた愛の主と共に歩むキリスト者の寛容(エペソ3:17-19a)

4

## IV パウロの示した寛容

1. 競争心一杯の未熟な伝道者(1:15-18)
2. テモテ(2:21-23)
3. エパフロデト(2:25-29)
4. ユウオデヤとストケ(4:2-3)
5. オネシモ(ピレモン17-20):獄中伝道の実  
→人々の存在を尊び、欠点を受容し、長所を認め、欠けを補う、成熟した御霊の人パウロ

5

## み言の適用

1. 私たちへのキリストの寛容な眼差しを感じる時、私たち自身も寛容になっていくのです
2. 私たちの寛容さを通し、自我の死とキリストの恵みが証しされます
3. イエス様に3度否定された後、赦されたペテロに注がれた主の愛と赦し、寛容に満ちたイエス様の視線を実感できるよう祈りましょう

(ルカ22:59-62)

6